

箕作省吾 蘭学者。世界全図作成に命をかけて夭折するも、幕末知識人の世界認識に大きな影響を及ぼした。

みつくりしょうご  
蝦夷地直轄終1821 =

陸奥国水沢で、仙台支藩留守家家臣で勘定方を務める佐々木秀規の次男に生まれる。

シベリア事件・1828 = 7歳 :

富籤流行・・1830 = 9歳 :

鼠小僧磔・・1832 = 11歳 : この頃、\_留守家の侍医で蘭学にも詳しい坂野長安について漢学と医学を学び、

滑稽+人情本 1835 = 14歳 : 父母が相次いで死去、

大塩平八郎乱1837 = 16歳 : この頃、\_師長安のもとを辞して、江戸へ遊学するが、満足できず、  
\_京都に上って、摩島松南・仁科白谷のもとで研究した後、

蛮社の獄・・1839 = 18歳 :

\_畿内・西国を見て回り、各地の事物を詳細に確認して、

\_水沢に帰郷、再び長安に入門して、蘭学を学ぶうち、箕作阮甫が大家であることを知って、

\_勇躍して再び江戸に出、美作藩邸にいた阮甫を訪ねて入門するや、その才に惚れ込まれ、

阿部正弘首座1845 = 24歳 : \*阮甫の婿養子となるとともに、師に報いるべく、興味をもつ地理を中心に猛烈に研鑽に励み、

孝明天皇・・1846 = 25歳 : \*「新製輿地全図」「坤輿図識(3巻)」を一気にまとめ、無理がたたって結核におかされながらも、さらに「坤輿  
図識補(4巻)」をまとめて、没した。

没後に誕生した長男がのちの箕作麟祥である。